

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の  
結果をふまえた指導改善策

I 調査の概要

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 上記のような取組みを通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象

小学校第6学年・義務教育学校第6学年の児童

3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ・児童に対する調査
  - ・学校に対する調査

4. 調査日時

平成31年4月18日（木）

II 学力調査の結果【小学校・義務教育学校前期課程】

1. 教科に関する調査結果（平均正答率※）

	国語	算数
全 国	63.8	66.6
広島県	66	68
府中市	71	69
上下北小学校	70	63

※平均正答率とは、「児童の正答数の平均」÷「設問数」の値を、%で表わしたものです。

## 2. 調査結果にみられる特徴と課題及び今後の改善策

### 【国語】特徴と課題

- ◇目的に応じて文章全体を効果的に読むことはできている。(読むこと) 91.7% 2- (1)
- ◆目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができていない。(書くこと)。39.1% 1-

◇…相当数の生徒ができています ◆…課題のある点

### 【国語】改善策

- 文章の外観を捉える読みをさせる。
- 報告する文章にふさわしいかどうかを判断し、適切な表現で書かせる場面を多くする。条件を示し、構成や内容をしっかり考えさせる。

### 【算数】特徴と課題

- ◇数量関係の問題は読み取れている。65.2% - (4) 加法と乗法の混合した整数・小数の計算
- ◆量と測定の分野においては課題がある。49.3% (領域2) 数と計算- (2) 39.1%
- ◆特に計算の工夫で示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に除法に関して成り立つ性質を記述する問題ができていない。
- ◆減法の式が示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書くことができていない。

### 【算数】改善策

- どのように求めたのかを算数用語を使ってわかりやすく説明する活動を仕組む。(ノートに書く・対話を通して説明する等)
- 計算の工夫を考えた問題に取り組み、四則計算を適切に使い、工夫できるように見通しを持たせる。
- 必要な情報をどのように使うか適切に選ぶなど見通しを持たせて問題に取り組みさせる。

### Ⅲ 学習状況調査の結果

#### 1. 学習状況調査（児童質問紙）の結果にみられる傾向

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも高かった項目

- 地域や子供会などの行事に参加しているか。93.5%（+28.4%）
- 学校の授業の予習をするようにしているか。80.6%（+25.0%）
- 読んだ本の内容について、友達や家族と話をしているか。83.9%（+24.4%）

肯定的な回答の割合が、全国平均値よりも低かった項目

- 授業では友達と話し合うなどして自分の考えを深めたり広げたりしているか。74.2%（-5.2%）  
対話的な学習活動の効果的な活用ができていないので、授業改善により、児童が自分たちから対話活動を要求できるように意識させる。
- 将来仕事や生活の中で役に立つと思うから勉強しているか。80.6%（-4.1%）キャリアノートなどの有効な活用や将来の見通しを持たせる活動が効果的に仕組めていないので、日頃から目的意識を育てたり、行事などの前には自分がどんな力をつけたいか考えさせる。
- 学校へ行くのは楽しいか。83.9%（-3.9%）主体的な学びが実感できる授業を仕組み、自己肯定感の持てる評価を効果的に行う必要がある。

#### 2. 生活習慣・学習環境などに関する改善のポイント

- 子供が考えたいと思うような課題設定の工夫をする。
- 日常の生活とつながる問題の設定やゲストティーチャー等地域や保護者と積極的に連携し、将来の自分をイメージする活動等を仕組んでいく。